

三沢市立三沢病院での外科実習を終えて

弘前大学医学部 5 年 松本 怜

5 月 11 日から 6 月 4 日まで外科で実習をさせていただきました、弘前大学医学部 5 年の松本怜（さとし）です。

「怜」という漢字から女性を想像されることが多いのですが、残念ながら体格のいい男性です。また、今年 35 歳になるため若々しさはありませんが、その分貫禄だけは年々増しているように感じています。

まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。私は長野県北部、志賀高原の麓にある山ノ内町出身です。この町は、温泉に入るサルで有名なので、一度はご覧になったことがある方もいらっしゃるかもしれません。

弘前大学に入学する前は、山ノ内町役場で勤務していました。移住定住促進係として、町外から移住される方のサポートや町の PR 活動を担当し、移住者を増やすことを目標

に仕事をしていました。そんな人間が町を離れて青森にいるということは、移住定住政策の失敗なのかもしれません。

新型コロナウイルス感染症の影響で移住促進の PR 活動がほとんどできなくなり、予定していた業務が大幅に減ってしまいました。そこで空いた時間を利用して医学部編入試験に挑戦したところ、幸運にも弘前大学に合格することができました。合格までにはさまざまな出来事がありましたが、その話はまた別の機会にしたいと思います。

さて、三沢病院での実習では、外科の先生方に本当によくしていただき、以前から興味があった外科について深く学ぶことができました。

臓器には何層もの膜があり、正しい層を見極め、その層に沿って剥離していくことの重要性を実際の手術を通して学びました。それまで私は、外科とは病変を見つけたら切除する診療科という漠然としたイメージを持っていました。しかし実際には、正しい層を見つけること自体が病変によっては非常に難しく、その際には解剖学や生理学の知識が大きな支えになることを実感しました。

授業や試験勉強で覚えてきた知識だけでは、「なぜこの術式を選択するのか」という問いに十分答えることはできませんでした。外科手術の術式は、多くの先人の先生方が試行錯誤を重ね、改良を積み重ねて現在の形へと発展してきたものです。どの術式にも意味があり、それぞれの疾患に対して最も効果的な方法が選択されています。今回の実習を通して、試験のために覚えた知識と、実際の臨床で生かされる知識との違いを肌で感じることができました。

また、手術室のスタッフの皆さんにも大変親切にいただきました。緊張と手術室の暑さで大量の汗をかいてしまった際には、首を冷やすものやタオルを用意してくださり、本当に



助かりました。

さらに、三沢病院では職員の皆さんの挨拶がとても丁寧で、互いに気持ちよく働ける職場づくりを大切にされていることが伝わってきました。このような温かい雰囲気の中で実習をさせていただけたことを、大変ありがたく感じています。

最後になりますが、ご多忙の中、学生である私に熱心にご指導いただいた外科の先生方をはじめ、手術室スタッフの皆様、そして三沢病院の職員の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

実習期間：2026.5.11～6.5